

1

接続詞

§ 1 接続詞の種類

接続詞とは、語と語、句と句、節と節などをつなぐ（接続する）ものである。
英語で接続詞の働きをする語(句)を分類すると、次のようになる。

接続詞...語、句、節、文などを、それ同士つなぐもの。
等位接続詞と従属接続詞に分けられる。従属接続詞のほうが多い。

接 続 詞				
等 位 接 続 詞	従 属 接 続 詞			
and	名詞節を導く	that (ということ)		
but		if (かどうか)		
or		whether (かどうか)		
nor	副詞節を導く	時	when, as, while, as soon as before, after, since till, until whenever every time, each time, the first time	
neither			条件	if, unless, suppose, supposing, providing (that), once
for (というのは)				譲歩
		原因・理由	because, as, since, now that that	
		目的	so that, in order that, in case	
		結果	so...that, ...so that	
		比較	than	
		様態	as, like, as if, as though	

< 等位と従属について >

(1) At the Christmas concert, I played the piano **and** Ken played the guitar.

(クリスマスコンサートで、私はピアノを弾き、(そして)ケンギターを弾いた。)

(2) As I had a cold, I didn't go to school.

(風邪をひいていたので、私は学校に行かなかった。)

上記の(1)の and は等位接続詞である。I played the piano.という文と、Ken played the guitar.という文が、等しい比重 (= 等位) で述べられていて、この二つが and で結ばれているからである。

(2)の As は従属接続詞である。「私は風邪をひいていた」ことと、「私は学校に行かなかった」ことは、同じ比重の文ではない。発話者が最も主張したいことは、学校に行かなかったという情報であり、そこに「風邪をひいていた」ことを、理由として添えているのである。

つまり、「学校に行かなかった」が主文(主節と呼ぶほうが多い)であり、「風邪をひいていたので」は、その主節に**かかる**ものと見なす。(この場合は、主節の理由を説明している)。

主節にかかる、すなわち主節に従属する節を、従属節と呼ぶ。そして**従属節をみちびく接続詞が従属接続詞である**。従って従属接続詞は、理由(「～なので」)や条件(「もし～なら」)、譲歩(「～なのに」)、時(「～した時」)など、前頁の ~ で示された様々な意味を持って、主節にかかるのである。

接続副詞...副詞なのに接続詞の働きをするものを接続副詞という。

以下のようなものがある。

接続副詞		
also (その上)	besides (その上)	then (それから)
however (しかしながら)	nevertheless (それにもかかわらず)	
still (それでもなお)	yet (それでもなお)	else (さもないと)
otherwise (さもないと)	(and) so (それ故に)	therefore (それ故に)
consequently (すなわち)	hence (すなわち)	namely (すなわち)
for instance (たとえば)	that is (すなわち)	
接続詞とともに用いられる接続副詞		
and so (だから)	and also (そしてまた)	but still (それでも)
and yet (それにもかかわらず)	and therefore (それによって)	or else (さもないと)

§ 2 等位接続詞(Co-ordinate Conjunctions)

等しい重みを持った語，句，節（文）同士をつなぐのが等位接続詞である。

and, but, or, nor, neither, for がある。このうち，neither をのぞくものに関して，知っておくべき用法があるので以下に示しておく。

なお，次の単元から解説されているものが，従属接続詞である。

and

(1) **単一**の概念を表す... 2つのものが **and** で結合しているが，単数形扱いである。

bread and butter（バター付きのパン）は発音が変わる。

「ブレッド アンド バター」ではなく「ブレドゥン バター」のように発音する。

(2) **不定詞の代用**

Come **and** see me whenever it is convenient for you.（東京経大）

（いつでも都合のいいときに私に会いに来なさい。）

Come to see me.... とほぼ同じ意味。

命令文で使われるのがふつう。go **and** see（～を見に行く）

(3) **命令文 + and...** : 「～しなさい，そうすれば...」

Hurry up, **and** you'll be in time for the last train.（急げば終電に間に合いますよ。）

=If you hurry up, you'll be in time for the last train.

(4) **both A and B** : A も B も（両方とも）

Both fog **and** cloud are made of very little drops of water.

（霧も雲もとても小さな水滴でできている。）

動詞は複数形に合わせる。

but

(1) **not A but B** : A ではなくて B

He is not a teacher but a scholar.（彼は教師ではなく学者である。）

(2) **not only A but (also) B** : A だけではなく，B もまた

also は省略されることがある。

This would include **not only** national holidays

but also weekends and paid vacation.

（これには祝日だけでなく週末の休暇や有給休暇も含まれる。）

= This would include weekends and paid vacation *as well as* national holidays.

(3) **Excuse me, but... / I'm sorry but...** : 「すみませんが, ...」

Excuse me, **but** would you mind not smoking here?
(すみませんが, ここでは喫煙はご遠慮願えませんか。)

(4) **It is true ~, but...** : 「なるほど~だが, ...」

It is true that he is wise, **but** he is poor. (なるほど彼は賢いが貧乏だ。)

or

(1) **選択** : 直訳は「A それとも B」「A または B」

Which do you like **better**, Bach or Mozart?
(バッハとモーツァルトのどちらが好きですか。)

(2) **命令文 + or...** : 「~しなさい, そうしないと...」

Hurry up, **or** you'll be late for the last train. (急がないと終電に遅れますよ。)
=If you don't hurry up, you'll late for the last train.

nor : 概念は両否定

(1) **neither A nor B...** : 「A も B も ~ない」

both A and B 「A も B も」や, either A or B 「A か B」と共に覚えておくとよい。

I like **neither** peaches **nor** plums. (私は桃もスモモも好きではない。)
= I don't like **either** peaches **or** plums.

(2) **nor do I / neither do I...** : 「私もまた...でない」

倒置が起こって nor V + S の語順になるのが特徴。

He can't play the guitar, **nor** can I.
(彼はギターが弾けない。私もです。)

My wife usually doesn't drink coffee at night, and **neither** do I.
(私の妻は夜コーヒーを飲みません。私もそうです。)

for : 文を補足してあとから理由を述べる際に使う。(forの前には通常コンマを置く。)
「~というのは」などと訳される。

He was late for school today, **for** he stayed up till three o'clock.
(彼は今日学校に遅刻した, というのは3時まで起きていたからだ。)

§ 3 名詞節を導く接続詞

節とは、SV（主語と動詞）はあるが、文の一部になっているところをさす。そのうち名詞の性質を持つ節が、名詞節である。名詞の仲間であるから、主語にも目的語にも補語にもなる。that で始まる that 節はその代表的な例である。他にも If 節や Whether 節がある。この that, whether, if が、名詞節を導く従属接続詞である。

that 節

I think that ... でおなじみの that である。「...ということ」と訳されることが多い。主語と目的語に用いられたときは、形式主語、形式目的語の it で置き換えられることもある。

(1) 主語節

That the earth is round is well-known.
= It is well-known that the earth is round.
(地球が丸いということは、よく知られている。)

(2) 目的語節

Everyone knows that the earth is round.
(みんなが、地球は丸いということを知っている。)

I found **that** we had completely opposite personalities.
(私は私たちがまったく正反対の性格をしているということに気づいた。)

(3) 補語節

I need a car. The problem is that I don't have enough money to buy one.
(私は車が必要だ。問題はそれを買うお金が無いということだ。)

(4) そのよく使われる that 節の表現

that はふつう前置詞の目的語とはならないが、以下の表現においては例外である。

in that... : 「...という点では」

Japan is different from other nations **in that** many Japanese workers hesitate to take paid vacations.
(多くの日本人は有給休暇をとることをためらうという点で他の国々と異なる。)

expect that... : 「...という点を除いては」

I know nothing, **expect that** she was there.
(彼女がそこにいたということ以外は、私は何も知りません。)

whether (if)節

whether も **if** も共に、「～かどうか」という意味で、that 同様、主語・目的語・補語の位置で用いられる。if は **whether** より口語的であるが、文頭では用いられない、後ろに or not を付けない、ということが特徴である。

「雨が降るかどうか」は、

Whether it will rain (or not) または If it will rain と表現する。

The question to be discussed at today's meeting is **whether** we should postpone the plan till next month.

(今日のミーティングで議論すべき問題は、その計画を来年まで延期すべきかどうかということである。)

I don't know if he will come tomorrow.

(あした彼が来るかどうかはわからない。)

You must decide **whether** you are going or not.

(あなたは行くのか行かないのかを決めなければいけません。)